

# 図書館だより

## 第 33 号

### 『図書館に行くって…、なぜ？』

至誠館大学 附属図書館長  
李 文相



今年度、附属図書館長に着任いたしました李文相（イ ムンサン）です。どうぞよろしくお願いいたします。本学の附属図書館は、萩女子短期大学時代の図書館からこれまで五十余年間の歴史を引き継いできました。

新年度の始まりにあたり、まず本学の学生の皆さんにお伺いしたいことがあります。皆さんは、友人から「図書館に行くって…、なぜ？」と聞かれたことはありませんか。あるいは、逆に友人に「なぜ図書館に行くの？」と尋ねたことはありませんか。そのような時、皆さんはどのような言葉を交わしているのでしょうか。

図書館には、基本的な魅力が備わっています。書架には、図書分類法に基づいて整理された図書が、小説、歴史、語学、科学、芸術などの分野ごとに分かりやすく分類されています。また、雑誌、新聞、機関紙なども備えられており、必要な資料を効率よく見つけることができます。一方で、図書館の魅力は、目的の本を探すことだけにとどまりません。自分では思いもよらなかった本と偶然出会うことがあります。外国文化に関する本を読んで歴史に関心が広がったり、ビジネス書を通して経営者の人生哲学に共感したり、小説の中で、自分には到底できないようなことを成し遂げる人物に感銘を受けたりすることもあります。

このように、図書館では「読む本」を通して、これまでの自分にはなかった新しい知識や思いがけない世界と出会うことができます。そして、その出会いによって視野が広がっていくのです。そこにこそ、「図書館に行く」大きな魅力があるはずです。それがつまり、「なぜ図書館に行くの？」の答えなのです。

### Contents

・『図書館に行くって…、なぜ？』

附属図書館長 李 文相

・おすすめの本

准教授 海沼 恭史 講師 田 莉

講師 正木 僚

・『なぜ。図書館を利用しないの』

教授 村田 洋

・令和 7(2025)年度 図書館統計

ここで、一冊の本をご紹介します。朴基淑（パク・キスク）著『図書館は生きている』（原書房、2023 年）です。

著者は、アメリカ・カリフォルニア州の公共図書館で長年司書として勤務した後、世界各地の図書館を訪ね歩き、「図書館オタク」として SNS (Social Media, Social Networking Service) で注目を集めました。この本で紹介されている話題を三つ取り上げてみます。

まず一つは「デジタル図書館の活用」です。電子書籍だけでなく、映画・音楽・教育コンテンツなど、多様な分野でストリーミングサービスが無料で利用できることが紹介されています。

次に図書館利用者を支援する「人気プログラム」の発案です。司書やアシスタント、ボランティアが協力して利用者支援のためのプログラムを展開しています。例えば、移民社会のアメリカで英語力を助ける「語学ヘルパープログラム」であったり、子ども向けの「宿題ヘルパープログラム」、またアジア系利用者向けの「韓国ドラマ・映画プログラム」では映画を上映したり、図書館の一室を地域のコミュニケーションの場として開放することが紹介されています。

もう一つは、「楽器図書館」です。楽器の貸出に加え、無料レッスンや練習室まで提供する図書館が増えていることが紹介されています。

このように、本だけでなく多様なサービスを提供する背景には、「図書館は人と社会をつなぐ生きた公共空間であり、“公共性”と“知識”を支える社会インフラである」という考えがあるからです。

この本は、図書館利用者だけでなく、図書館運営に携わる私たちにも多くの示唆を与えてくれる一冊です。読んでみませんか？

## 先生のおすすめの本

### 『コーヒーが冷めないうちに』

川口 俊和著 サンマーク出版 2015年

現代社会学部

准教授 海沼 恭史

みなさんは、過去に戻って会いたい人に会えると言われたら、会いに行くでしょうか？亡くなった家族、別れてしまった恋人、喧嘩をしたまま疎遠となってしまった友人、誰にでも自分の思いを伝えられずに後悔しながらも会えなくなってしまったという方もいるのではないのでしょうか？

本書は、2018 年に有村架純主演にて映画化もされています。すでに、映画を鑑賞された方もいるかもしれません。この物語の特徴は、“過去に戻っても、過去を変えることはできない”ということです。一般的な、過去に戻って未来を変えるという物語ではありません。ですから、物語の登場人物は、自身の思いと今後の人生に向き合っています。必ずしも、心の傷が癒されるわけではありませんが、自分の人生を一步踏み出そうとするきっかけを掴んでいるのです。

これは、現代社会を生きるみなさんにも共通すると思います。過去に戻って人生をやり直すことはできません。だからこそ、この瞬間を一生懸命生きていかなければならないのです。時には迷い、寄り道をすることもあると思います。そんな時、本書を手にとって、心を動かしてください。自分だったらどうするか？自分は、後悔していないか？自身の思いを見つめ直す一冊であると思います。

### 『Self as Method: Thinking Through China and the World』

Biao Xiang, Qi Wu 著 Palgrave Macmillan 2022 年

現代社会学部

講師 田 莉

情報が溢れ、変化の激しい現代社会。私たちは日々、押し寄せるニュースに圧倒され、先の見えない不安や自分がどこにいるのかという迷いを抱きがちです。

本書は、社会人類学者・項飏氏が、若い記者との対話を通じて自身の半生を語った一冊です。専門的な理論は一切使われていません。氏は自身の家族や教育の本質的な体験から出発し、現代の荒波の中で自分を見失わないための知恵を提示します。それは、自らの「身近」に対する解像度を上げること。彼は、抽象的な理論に頼るのではなく、自分自身の具体的な経験や違和感、目の前の日常を徹底的に観察し、社会を理解するための「方法」にせよと説きます。

自分が今置かれている小さな社会や環境のディテールを丁寧に紐解き、曖昧さを排除していくことで、私たちは初めて確かな足場を得られるのだと教えてください。私はなぜ今、こう感じているのだろうという問いこそが学問の始まりです。大学での学びとは、知識の暗記ではなく、自分の心の揺らぎを出発点に自分だけの座標軸を築くプロセスです。

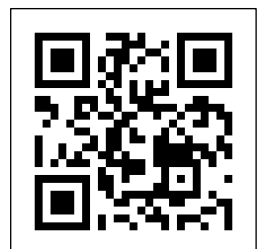
なお、本書は Springer Nature にて無料ダウンロードが可能です。あなた自身を「方法」として、複雑な世界を読み解く冒険へ出かけてみませんか。

## 「朝日新聞クロスサーチ」を使って、新聞記事を読もう

大学内のネットワークを利用すれば、「朝日新聞クロスサーチ」を使って朝日新聞の記事を検索し、読むことができます。過去の記事から最新のニュースまで検索可能です。

レポート作成や卒業研究、就職活動などに活用してもらえればと思います。

まだ活用したことない人も、ぜひ一度アクセスしてみてください。



ここからアクセスできます

# 『どうして「体育嫌い」なんだろう——ジェンダー・セクシュアリティの視点が照らす体育の未来』

井谷 恵子、井谷 聡子、関 めぐみ、三上 純著 大修館書店 2025年

現代社会学部

講師 正木 僚

突然ですが、私は卓球が好きです。水泳もそんなに嫌いではありません。どちらも部活動や習い事を通してそこそこ「できる」ようになり、楽しさを見出せたからだと思っています。一方で、学校の体育は嫌いでした。身体能力が高くないので多くのスポーツは不得手ですが、卓球や水泳でさえ、体育の授業では楽しさが半減した記憶があります。

みなさんは「体育嫌いな人は、運動が嫌いだからそう思うのだろう」と、とらえていませんか？もちろん、そういう人もいます。でも、私のように「運動は嫌いではないけど、体育嫌い」な人もいます。「体育嫌い」の内実は多様なのです。

今回おすすめする本は、こうした「体育嫌い」を個人の問題に矮小化せず、「体育嫌い」にさせてしまう体育の構造を「性」に関する視点から解明しようと試みています。研究論文が基になっていますが、言葉づかいや文章構成が工夫されていて、読みやすく仕上がっています。教員免許状の取得を目指す人はもちろんですが、誰もが生きやすい社会をつくるために必要な視点が詰まっていますので、一人でも多くの学生や教職員に手に取っていただきたい良書です。

## 令和 7(2025)年度 図書館統計

令和 8 年 3 月 31 日現在

|      |                                                |
|------|------------------------------------------------|
| 所蔵図書 | 89,568 冊<br>(和書 75,318 冊 洋書 14,250 冊)          |
| 所蔵雑誌 | 484 誌 ※3 年分以上所蔵しているもの<br>(和漢雑誌 371 誌 洋書 113 誌) |

|         |         |        |
|---------|---------|--------|
|         | 図書受入冊数  | 雑誌受入誌数 |
| 令和 6 年度 | 1,270 冊 | 20 誌   |
| 令和 7 年度 | 1,221 冊 | 20 誌   |

|         |       |         |        |
|---------|-------|---------|--------|
|         | 開館日数  | 入館者数    | 館外貸出冊数 |
| 令和 6 年度 | 233 日 | 6,753 人 | 811 冊  |
| 令和 7 年度 | 234 日 | 6,276 人 | 530 冊  |

|         |        |       |         |
|---------|--------|-------|---------|
|         | 相互協力件数 | 学外利用者 | 学外者貸出冊数 |
| 令和 6 年度 | 119 件  | 45 人  | 52 冊    |
| 令和 7 年度 | 60 件   | 110 人 | 22 冊    |

|         |          |          |
|---------|----------|----------|
| 機関リポジトリ | アクセス数    | ダウンロード数  |
| 令和 6 年度 | 39,904 件 | 17,724 件 |
| 令和 7 年度 | 94,977 件 | 32,654 件 |



## 『なぜ。図書館を利用しないの』

至誠館大学 現代社会学部  
教授 村田 洋



文部科学省の令和6年度社会教育統計(令和 7 年 7 月 30 日)によりますと、都道府県の公的な図書館の数は 3,400 施設ほど存在するということです。<sup>1</sup> また、大学の図書館の数は、蔵書や規模には違いがありますが大学の数だけ図書館があると考えてよいでしょう。大学の図書館の利用状況などは十分に把握はしていませんが、公立図書館の1施設当たりの利用者数の推移は、増加傾向にあるといわれています。つまり、一般の人の図書館を利用する人の数が、増加傾向にあるということです。

では、東京キャンパスがある中野区の図書館利用事情はどうでしょうか。中野区には中野区立図書館があり、利用可能な図書館が区内にライブラリーを含め 10 館ほど存在します。都内では世田谷区が図書館保有数では 1 位で 21 館もあるといわれています。<sup>2</sup> 代表的な国立国会図書館(千代田区、東京本館)は、規模や蔵書の数が最大級で別格としても、中野区としては、図書館保有数は区内で 14 位、文京区と同数です。区の面積から見た図書館占有密度は 6 位でまずまずではないでしょうか。

では、学生の図書館利用はどうでしょうか。もちろん東京キャンパスには、大学の図書館はありますが、規模は小さく、蔵書の数はかなり少ないように思われます。今後の大学図書館改革が望まれるところです。問題は、本学の学生たちが、どれだけ本学の図書館を含め公立の図書館をどの程度利用しているかです。本学の図書館を含め公立の図書館の利用状況の具体的な数字などは不明ですが、特に大学や公立の図書館を利用している学生はそれほど多いとは思えないのです。

なぜでしょうか。なぜ大学の図書館を含め公立の

図書館を学生が利用しないのでしょうか。この問題に関して、ある調査資料がありますので参考の一つとして照会しながらコメントすることとします。「意識調査の From プラネットによる図書館利用に関する意識調査」<sup>3</sup>によりますと。利用頻度の点では年齢の高い人は利用頻度が多く、若者の利用頻度は比較的少ないという二極化傾向にあるようです。つまり、高齢者は図書館を有効に利用しているといえます。さらに、女性はコロナなどの感染症が心配であるようですし、男性は読みたい本がないから利用しないという結果もあるようです。また、会社役員・経営者は「雑誌を閲覧」「音声・画像メディアを借りる」などの傾向があり、一方、学生は「閲覧室で勉強や仕事をする」などの理由が結果としてあるようです。

これは私論であるかもしれませんが、外国人の図書館の利用については調査結果がないので詳細についてはわかりませんが、日本人と同じ傾向なのかもしれません。あるいは外国人にとって、留学生にとって図書館が使いにくいということであれば、これは改めて調査分析をして処方箋を検討しなければならない問題です。

ただ考え方においては前向きな方向性もあるのかもしれません。それは、「閲覧室で勉強する」という側面です。図書館は本を借りるための場所のみではないのです。その図書館で、本を片手に勉学に励むという側面は大いに評価したいのです。今後、本学の学生諸君が、図書館の利用頻度を高め、沢山の文献や書物を読み勉強に研究に励んでくれるよう期待している次第であります。

<sup>1</sup> 文部科学省.令和6年度社会教育統計(社会教育調査の結果)中間報告について.総合教育政策局参事官(調査企画担当){表1施設数の推移} 参照。

<sup>2</sup> 図書館ナビ.「東京都の図書館 人気ランキング(174 件)」。参照。

<sup>3</sup> 株式会社プラネット「図書館利用に関する意識調査」意識調査 From プラネット Vol.163 <図書館利用に関する意識調査>“借りる”は新刊・ベストセラー、“閲覧”は趣味の実用書 | 調査研究 | 知る・役立つ・参加する | 株式会社プラネット。参考。

### 利用案内

開館時間:8:45~17:30

休館日:土・日

※都合により臨時休館する場合があります。

・貸出冊数:学生 5 冊 一般市民 2 冊

・貸出期間:学生、一般市民ともに 2 週間

至誠館大学附属図書館

図書館だより第 33 号(2026.6.12発行)

〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000

Tel:0838-24-4081 Fax:0838-24-4093

E-mail:library@shiseikan.ac.jp

HP:https://www.shiseikan.ac.jp/library